

蒐集するとはどのようなことか？ —文学に描かれたコレクターについての研究—

国際言語文化学科 浅間 哲平

●連絡先 TEL.054-264-5255



蒐集, コレクター, フランス, 文学, 所有欲, 美術館, 小説

人はなぜ「もの」に執着するのでしょうか。なにかを所有したい・蒐集(しゅうしゅう)したいという欲望はどのように生まれるのでしょうか。こうした執着・欲望は、非常に古くから、かなり広い範囲で観察されるものでした。例えば、世界の支配者(王、皇帝、帝国など)は、その富を集中させ展示してきました。しかし、産業化した社会があらわれた19世紀のフランス・イギリスではじめて、私たちが感じている所有・蒐集欲が本当の意味で感じられるようになったと私は考えています。私の研究は、小説の中に描かれた蒐集家(コレクター)を題材とし、「もの」に狂うという近代人に固有の現象を分析しようとするものです。王や国家の系譜をたどるような大きな歴史ではなく、私たち自身にひそむ欲求を小説の中から明るみにだそうとしているのです。



Cabinet d'Alexandre Du Sommerard,
d'après le tableau d'Oscar Norvillers



Les collectionneurs,
par M. le comte Horace
de Viel-Castel

アピール
ポイント

人間の欲望のありようを知るためのひとつの手段として、文学を活用できるのではありませんか。社会における文学の役割について関心をもって研究を進めています。